

越生氏館跡(入間郡越生町) 築城年代:平安時代末期、築城者:越生有行

おごせしやかたあと

ここは越生氏館跡とされる越生神社/正面は一の鳥居





正面は拝殿/この背後に越生氏の「詰城」とされる高取城跡のある高取山がある



説明板が立っている



越生神社と高取山

越生町越生

越生神社は明治四十二年（一九〇九）に、神社合祀令を受けて、琴平神社に、旧越生村村社八幡神社、日吉神社、八坂神社、旧黒岩村村社の八坂神社、ほか市街地に点在していた稲荷社を合祀して造営された神社である。

七月下旬に催される「越生まつり」は、牛頭天王を祀る八坂神社の祭典、祇園祭（天王様）の系譜を引いている。神社を出立した神輿が町内を渡御し、夕刻から曳行される六台の山車の上では、神田囃子の流れを汲む囃子の競演が繰り広げられ、華やかな江戸天下祭の名残を今に伝えている。

越生神社の奥宮がある高取山には中世の山城跡がある。標高約百七十mの頂上が平らに削られ、空堀と土塁で画された郭（曲輪）が数段残されている。江戸時代の地誌『新編武蔵風土記稿』には「越生四郎左衛門屋敷跡」と記されている。越生四郎左衛門は『太平記』に登場する、南朝の北畠顕家を討ち取った武将である。越生神社下方の平地地付近と推定されている越生氏館背後の高取山に築かれた「物見砦」や「詰城」であった可能性がある。一方、現存する遺構は室町期後半から戦国期のものであり、太田道真・道灌父子と長尾景春の戦いを中心とした時期のものとする見解もある。

平成二十五年三月

越生町教育委員会

これは土塁の名残りのようだ



反対の道路側から見たところ



この辺りは「武蔵おごせハイキングコース」となっており、行先表示が幾つも立っている/右端は越生神社の標柱



少し退いて見たところ/土塁の雰囲気がある



坂の下の方から見たところ/左手に一の鳥居がある/手前に石造物が建っている



越生神社と記された石柱とさまざまな石造物



右手前は越生絹会館で、この辺りも越生氏館跡のエリアとされる/中央やや左前方の木々の中に越生神社(越生氏館跡)があり、その背後の山が高取山(越生氏の詰城である高取城跡がある)となっている



ここが越生絹会館



これは越生神社の近くにある法恩寺/鎌倉時代に越生氏によって再興されたという/正面は山門(中門)で正徳元年(1711年)の
建立(法恩寺年譜より)



法恩寺

越生町越生

寺伝『法恩寺年譜』によると、松溪山法恩寺は天平十年（七三八）に東国遊行中の行基が開創したとされる。無住となり寺山と呼ばれていたが、鎌倉時代に越生氏一族の倉田基行夫妻が天竺僧とともに、紫雲棚引く古井から行基が奉じた五尊の仏像を見つけた。夫妻は草堂に仏像を祀り、出家して瑞光坊、妙泉尼を名乗った。建久元年（一一九〇）、この地を訪れた源頼朝は二人の話に感銘を受け、土地と田畑を寄進し、基行の甥の越生次郎家行に堂塔伽藍を建立させたと伝えられている。小字寺井に、金明水・銀明水と呼ばれる湧水が現存する。室町時代の応永五年（一三九八）に栄曇が入山し、それまでの天台宗を真言宗に改宗して中興開山した。

天正十九年（一五九一）には徳川家康から寺領二十石の朱印地を与えられ、江戸時代には新義真言宗の僧侶養成機関である関東十一談林の一つに列し、住職が将軍に直接拜謁できる「独礼」を許された高い格式を持つ寺院となった。

「絹本着色高野・丹生明神像」「絹本着色釈迦三尊及阿難迦葉像」（国指定重要文化財）、「絹本着色両界曼荼羅」（県指定文化財）、「木造大日如来坐像」「法恩寺年譜」（町指定文化財）など、寺の歴史と由緒を物語る様々な宝物が伝存している。

平成二十五年三月

越生町教育委員会

「正徳四年に再建された山門と鐘楼。優美な姿をそのまま残している。」と記されている



こちらが享保6年(1721)の建立(法恩寺年譜より)の鐘楼



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/144ogose/ogose.html>

<http://ckk12850.exblog.jp/4288503>

http://gi001.gokenin.com/tanbou/11_saitama/02_iruma/012_ogose/ogose.html

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/ogosemati.htm>

<http://www.ogose-houonji.or.jp/Grounds.html>

<http://www.myluxurnight.com/kanto/ogose-02/ogose-01.html>

